

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	ほっかいどうのほりべつあけびちゅうとうきょういくがっこう				②所在都道府県	北海道
26～30	①学校名	北海道登別明日中等教育学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	在籍者総数	463名
後期課程普通科	75	74	77		226	前期課程	237名
						後期課程	226名
⑥研究開発構想名	AKB Future Project『世界の明日を創る』						
⑦研究開発の概要	グローバル・リーダーとして求められる資質である、「国際的な対話力」「課題解決力」「情報発信力」を育成する。具体には、地域や世界の食糧問題をテーマとした提案型の探究型学習を実施し、多面的・多角的に考察し解決する力を育むほか、海外研修等を通じて、国際的視野を広げ、国際的に活躍し貢献する人材の育成を目指す。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>6年間にわたる中高一貫教育を通じて、グローバル・リーダーとして求められる資質である、「国際的な対話力」、「課題解決力」、「情報発信力」の育成を目指す提案型探究学習プログラム「AKB Future Project『世界の明日を創る』」の開発を行う。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>① 現状の分析</p> <p>本校は、平成19年に開校した北海道初の中等教育学校であり、世界に羽ばたき、新たな時代を築く有為な人材の育成を目指し、国際理解教育・外国語教育を重視するとともに、異年齢の生徒との交流活動など多様な体験活動を実施している。今後は、本校が目指す人材育成を実現するため、提案型の探究型学習を通じて、課題解決に取り組む態度や能力、情報発信力の育成を図る学習プログラムの開発が必要である。</p> <p>② 研究開発の仮説</p> <p>これまでの国際理解教育等の活動を基盤として、グローバル・リーダーとして活躍できる資質能力を身に付けさせるため、以下の3つの仮説を設定する。</p> <p>本研究においては、地域（北海道）や世界の食糧問題についての探究型学習に取り組むことにより、経済や環境、産業（主に農業）、地域振興など多面的、多角的な分野・領域から物事を考察する力を育成するとともに、諸外国の人々と交流やディスカッションをすることにより、コミュニケーション能力や国際的素養を身に付けさせることができる。と考える。</p> <p>(仮説1) 地域（北海道）や世界の食糧問題をテーマとして取り上げ、大学や農林水産省、JICAなど関係機関と連携し、少人数グループによる探究型学習に取り組むことにより、生徒の批判的・論理的思考力などを高めるとともに、よりよく問題を解決する力を養うことができる。</p> <p>(仮説2) 語学研修や海外研修、外国人教員等によるディスカッションやディベート演習の実施等、学年の段階に応じ系統的にコミュニケーション力を育成する学習プログラムを開発し、このプログラムにより身に付けたスキルを道教委主催のスーパーイングリッシュキャンプや、登別観光協会との連携による観光ボランティアなどの場面で積極的に活かすことで、外国人と積極的にコミュニケーションを図る態度と、対話ができる表現力を育成するとともに、国際的素養を身に付けさせることができる。</p> <p>(仮説3) 海外の姉妹校での日本文化等に関するプレゼンテーションや、TV会議システムでの海外の高校生や大学生との意見交換の実施、ホームページによる情報発信等、研究成果を発表することにより、情報発信力を育成することができる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域（北海道）及び世界の食糧問題を考察し、その解決策を、道知事（農政部）や農林水産省（北海道農政事務所）に提案する。 ○ 取組の成果を「AKB Future Project」通信として、ホームページで公開する。 ○ 課題研究発表会を開催するほか、地域・全道の研究会等で成果について発表する。 					

<p>⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域（北海道）や我が国における今後の農業の在り方（T P Pに関する問題を含む） ・食糧問題と環境との関わり，及びそれらの問題を解決するための方策 ・食糧問題と経済活動との関わり，及び市民として，国家として世界の食糧問題を軽減・解決するための方策 <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>① 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な学習の時間における，上記3テーマについての課題研究（主にグループワーク） ○ コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱにおける，外国人教員による食糧問題等をテーマとしたディスカッション，ディベート演習 ○ 現代社会，家庭基礎における，JICA研修員による食糧事情等に関するセミナー ○ 現代社会，社会と情報，家庭基礎，総合的な学習の時間における，大学教員等による日本・世界の食糧問題やT P Pに関する問題についてのパネルディスカッション，グループワーク ○ 現代社会における，食糧問題を題材として，地球環境，資源等様々な視点からのグループワークやディスカッション ○ 社会と情報における，課題研究のテーマに関わる情報収集及びグループでの意見交換 ○ コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱにおける食糧問題の題材に基づくグループワークやプレゼンテーション ○ 海外でのフィールドワークにおける，訪問国の農業についての現地調査 ○ 英語のホームページによる研究成果の発信 <p>② 検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ルーブリックにより，生徒の自己評価及び教員の評価を分析し，達成度について検証 ○ 生徒の発表活動等における生徒同士の相互評価及び教員による評価 ○ 運営指導委員会や連携先の大学教員等からの外部評価 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>なし</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>① 内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会と情報，家庭基礎における，和食に関する調査研究及び発表活動 ○ コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱにおける，北大教員，外務省・領事館職員による異文化理解に関するセミナー ○ 英語表現Ⅰにおける，テレビ会議を活用した海外の高校生との意見交換 ○ 学校設定科目「国際観光学」における地域経済活性化プランの作成及び発信 ○ 海外研修における，海外の大学生との世界の諸課題等についてのディスカッション <p>② 検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の発表活動等における，生徒同士の相互評価及び教員による評価 ○ 運営指導委員会や大学教員等セミナー講師からの外部評価 ○ 生徒の取組に関するアンケート結果の分析 <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <p>なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 英語キャンプにおける，留学生とのディスカッション ○ 海外研修における，海外姉妹校でのプレゼンテーション ○ テレビ会議を活用した海外の高校生との意見交換 ○ 国際会議等への出席，通訳ボランティア活動など
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>なし</p>

ふりがな	ほっかいどうのほりべつあけびちゅうとうきょういっくがっこう	指定期間	26～30
学校名	北海道登別明日中等教育学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(26年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:	15人	15人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 難関大学を志望し、将来国際的に活躍する生徒数									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	1人	4人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 留学又は海外研修を経験する生徒が、卒業までの3年間で見込める生徒数									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	40%
	SGH対象生徒以外:	30%	35%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 将来、大学及び仕事で留学や海外勤務をされると思われる生徒数									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	3人
	SGH対象生徒以外:	1人	1人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 社会問題等への解決策及びグローバルな社会への対応等について考察し、入賞する生徒数									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	55%
	SGH対象生徒以外:	45%	45%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: B1レベルの生徒の増加を目指すとともに、B2レベルの生徒増の割合									
大学主催によるコンクール等への英語論文の投稿									
f	SGH対象生徒:								5人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人						
目標設定の考え方: 海外に発信できる英語力及び思考力の育成を目指す生徒数									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(29年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	35%
	SGH対象生徒以外:		25%	30%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 大学進学後、留学及び海外勤務を視野に入れた大学選択をする生徒の割合								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:		1人	1人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 本事業で育成され、海外の大学へ進学する生徒数								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	20%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 本事業を通して、経済、国際問題、環境等の専攻分野の選択が見込める生徒の割合								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: 本事業を通して、留学又は海外での研修に関心をもつ生徒数								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(26年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0 人	0 人	人	人	人	人	人	75 人
目標設定の考え方: 海外見学旅行及び海外研修において、課題研究に関する研修に参加する生徒数								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0 人	0 人	人	人	人	人	人	227 人
目標設定の考え方: 課題研究の一環として実施するワークショップやパネルディスカッション等に参加する生徒数								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0 校	0 校	校	校	校	校	校	4 校
目標設定の考え方: 海外見学旅行や海外研修時において連携する海外大学・高校等の数								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	0 人	0 人	人	人	人	人	人	41 人
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0 人	0 人	人	人	人	人	人	4 人
目標設定の考え方: 企業や国際機関からの参画数								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	4 人	5 人	人	人	人	人	人	8 人
目標設定の考え方: 国際会議や公益性の高い各種大会に参加する生徒数								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	0 人	0 人	人	人	人	人	人	1 人
目標設定の考え方: 本事業の実施による帰国・外国人生徒の受入れ数								
先進校としての研究発表回数								
h	2 回	2 回	回	回	回	回	回	3 回
目標設定の考え方: 広域性のある北海道各地及び道外での研究発表数								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						△
目標設定の考え方: 初年度ホームページを整備し、以後充実を図る								
テレビ会議での海外高校生との意見交換								
j	0 校	0 校	校	校	校	校	校	1 校
目標設定の考え方: テレビ会議による海外の連携校数								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	233	226	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							

※SGH対象外生徒数: 前期課程の生徒数